



所在地 ▶ 東京都町田市下小山田町2745-1 URL ▶ <https://www.bott-home.org/>

## 子育て広場・いっぱいぽ



### 実施期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	836,000円
令和3年度：	1,667,000円
合計：	2,503,000円

(建物改修費、備品等購入費、賃金、報償費、消耗品費、役員費)

### 事業概要

- 地域の子育て家庭の孤立化を予防するために、子育てに関する課題を抱える保護者と時間を共有し、共に考えていくことを通して信頼関係を構築し、子育てに対して前向きにとらえていく力を高めていくことを支援する。
- 事業内容は以下のとおり。
  - 対象：地域に暮らす乳幼児のいる子育て世帯
  - 取組内容
    - ①児童養護施設の空き居室の一部を借りて、子育て広場「いっぱいぽ」を週3回開催する。
    - ②専任のスタッフを置き、子どものプログラムとして、手遊び、絵本の読み聞かせ、パネルシアターなど保護者と子どもと触れ合う時間を作る。
    - ③親支援として個別相談を受ける。
    - ④「つながり」を持つことを目的として、月4回ランチの無料提供を行う。
    - ⑤社会的養護を必要とする子どもに対する養育の専門機関であり、本事業を利用する家庭に何らかの問題が生じた際には、法人の機能を最大限に生かし対処する。

も継続して参加すること

- 利用した保護者が自己肯定感を持ち、自信をもって主体的に子育てができるようになること
- ランチを無料提供することにより、食事を通して人と人とのつながりを持つ機会を提供すること
- 適切な関わりをすることで、保護者を虐待に追い込まないようにする。「孤立感」を解消するための保護者の居場所を作る。ありのままの保護者を受け入れることによって「自己肯定感」を高める。

### 【事業計画】

- 令和2年12月
  - 法人施設内改修工事終了
  - 非常勤、専任スタッフの募集
  - チラシ配布
- 令和3年1月～3月
  - 備品購入、整備
  - プレ子育てひろばの開催  
(毎週1回10時～12時半、月に1回ランチ提供、親子5組)
- 令和3年4月～令和5年3月
  - 子育てひろばの開催  
(毎週3回10時～15時、毎週1回ランチ提供、親子8組)
  - 年に6回、母親のみの講座開催
  - クリスマスにイベント開催 (親子12組)

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

- 参加者の安定した参加および新規の参加者がその後

## 実施状況・成果

### 【実施状況】

- 子育てひろば・いっぱいぽの開催  
(令和3年4月～令和4年3月)
  - 週に3回(月・水・金)、10時～15時、111回開催、延べ406家庭が参加  
(参加した子どもの内訳:0歳142名、1歳90名、2歳203名、3歳99名、4歳14名、5歳以上4名、延べ552名)
  - 親子ふれあい遊びとして、手遊び、絵本の読み聞かせ、パネルシアターなどを行った。
- 「ばくばくDay」(食に親しむプログラム)
  - 試食や栄養価を学ぶ機会を作った。
- 「ふらっとサロン」(保育付きの親だけのサロン)
  - 4回開催、17名参加
  - 誰かに子どもを預けて自分だけの時間を使ってよいことを経験する機会となった。
    - ・「三色パステルアート」(7月)  
6名参加、保育8名
    - ・「ママたちのしゃべり場①」(9月)  
3名参加、保育4名
    - ・「絵本のある子育て」(10月)  
親子4組10名、ホームビジター1名参加
    - ・「ママたちのしゃべり場②」(11月)  
4名参加、保育5名
- 「プチサロン」(親が先生になって皆に教える場)  
「親子でカップケーキ作り」(12月)
  - 親子8組20名参加、父親も1名参加
  - 講師は子育てひろば・いっぱいぽに参加している母親
  - お菓子作りは昨年度参加者からの希望
- 大きなイベント
  - 「腹話術」(6月) 親子5組13名参加
  - 「秋祭り」(9月) 親子8組20名参加、父親も1名参加
  - 「絵本月間と旅する絵本の企画」(10月)  
10月を絵本月間としてスタッフによる読み聞かせを行った。
  - 「クリスマスイベント」(12月) 親子13組30名参加、ダンス・歌・パネルシアター・工作などのプログラムを行った。
  - 「お楽しみ会、お別れ会」(3月) 親子8組17名参加
- ランチ会の開催(9月～1月)
  - 11回開催、保護者77名が参加
  - 保護者に昼食提供。子どもはお弁当持参。

### 【成果】

- 孤立感の解消  
継続して利用する家庭が多く保護者同士が顔見知りになることで、子どもも保護者も安心して過ごせる居場所となった。子育ての悩みなどを話せる関係性や、新しい親子が来た時に受け入れやすい雰囲気が出た。
- 安心していられる居場所  
スタッフや他の保護者から受け入れられていると感じることで、保護者が安心して子どもや家庭の話をするようになった。子どもの育ちを支援するだけで

はなく、保護者自身の居場所となった。

- 自己肯定ができる居場所

●保育付きの「ふらっとサロン」では保護者だけの時間をつくり、自分を見つめる

時間を持つことができた。他者の考えを知り、世界が広がる経験になった。

●スタッフや他の保護者に受け入れられることによって、自分自身を受け入れることができ、ひろばで過ごした後の時間は子どもに優しくなれるという感想が多かった。

●長い時間かけて一緒に過ごすことで、自分の子どもや他の子どもの成長を皆で分かち合い一緒に喜ぶことができた。このことが、保護者が自分自身を受け入れることにつながった。

- 他の支援を使いやすくなる

法人内の他事業を知る機会になったり、実際に保育を利用したりして、様々な子育て支援を使うハードルを下げることもできた。

- 保護者の強みのエンパワメント

保護者が持っている強みを見出し活用する機会を作ることで、自信につながった(お菓子や作品作りなど)。

## 課題と対応

- 新型コロナウイルス感染症の影響で密を気にする必要があるため、参加者が多くなると手狭になることが課題。テラスを上手く使えるように工夫する。
- ひろばの場所がバス停や駅から離れているため、車がないと利用しにくい。課題を抱えた親子が利用する場合は、バス停まで迎えに行くなどの工夫をする。
- 課題のある親子への対応について、スタッフの質の向上が求められる。スタッフの育成として、外部研修などに参加できるようにする。
- 母親が「子育てが辛い」と思う要因の一つに、「夫が気持ちを分かってくれない」「夫とのコミュニケーション不足」などを挙げている。そのため、父親が参加できるプログラムを取り入れる。

### ★ 団体にとっての効果 ★

●参加者の中から非常勤の専任スタッフ(保育士)を雇用することができ、工作や手遊びが充実し遊びの幅が広がった。スタッフが増員されたことで開催回数を増やすことができ、新しい親子の利用が増えた。

●町田市内の子育て支援団体によるイベントに参加し、他の子育て団体と連携することができた。

●他の子育てひろばの見学研修やオンラインによる研修に一部のスタッフが参加することでサービスの質が向上し、今後のビジョンを持つこともできた。

所在地 ▶ 東京都清瀬市元町2-18-10 URL ▶ <https://www.piccolonet.org/>

## 家庭訪問型子育て支援ヒヤリ・ハット 検証からの実践ツール作成と研修開発



### 実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	962,000円
令和3年度：	1,950,000円
合計：	2,912,000円

(備品等購入費、賃金、報償費、旅費、消耗品費、役務費、使用料・賃借料)

### 事業概要

- 「ヒヤリ・ハット」事例の分析・検証により、家庭訪問型子育て支援の指針を導き、事業者任せの実状から、自治体とともに「安全・安心な支援」の実施と、地域の子育て支援のマインドを身につけた支援者の育成を目指す。
  - 分析チームの立ち上げ（専門家含む）と検討委員会の開催
  - 事例の選別および分析と指針の提案
- 「見て・学ぶ」ことに特化した研修を提案するために、実践ガイドブックと映像での実践ツール（MPEG-4）を作成し、62市区町村全ての子育て家庭への支援と、地域の子育て支援の強化を図る。デジタルデータとして作成された研修内容は、個別でも集合研修でも学べる機会が得られ、今後コロナ禍でも研修の実施が可能になることを目指す。
  - 家庭訪問型支援の育児・家事支援の留意点とポイントの提示
  - 支援者、利用者親子および制作会社の協力のもと、映像での実践ツールを作成
- 作成した実践ツールを活用し、家庭訪問型子育て支援に特化した支援者研修の内容を提案していく。自団体でモデル研修の実施と評価を行った上で、都内

で活動する団体や自治体の支援にも実践ツールを活用してもらい、集合研修が難しい場合でも個別に学べることを目指す。

- 分析チームを含めた検討委員会の開催
- 自団体支援者対象の研修の実施と評価
- 都内市区町村を対象に実践ツールを使用した研修の実施と提案

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

- 「ヒヤリ・ハット」事例の分析・検証
  - ヒヤリ・ハット事例を分析することにより、実践ガイドブックの作成などに役立てる。
- 支援者向け実践ガイドブックおよび映像での実践ツールの作成
  - 実践ガイドブックの作成（200部）
  - 映像での実践ツールの作成
  - デジタルデータとして作成することにより、集合・個別研修両方の実施が可能となる。
- 家庭訪問型子育て支援に特化した実践ツールを使用したモデル研修の実施と評価
  - 令和3年度：自団体でのモデル研修の実施（参加者延べ60名）
  - 令和4年度：研修（23区版、多摩地区版）の実施

- ・都内で訪問支援を行う団体や行政の委託事業者を対象に実践ツールを活用した研修を計4回実施
- ・都内62市区町村などに案内し、ファミリー・サポート提供会員17,466名を対象に広報活動

### 【事業計画】

#### 〈令和2年度〉

- ヒヤリ・ハット事例の選別（令和2年10月）
- 検討委員会の選出の承認（令和2年12月）
- 検討委員会の開催（令和2年12月から月1回程度開催）
- 支援者へのヒアリング実施（令和3年1月から3月）

#### 〈令和3年度〉

- 実践ガイドブック原稿確認・デザイン、印刷（令和3年7月）
- 映像での実践ツール作成（令和3年8月）
- モデル研修の実施（令和4年2月）

#### 〈令和4年度〉

- 都内研修のための広報活動および準備（令和4年5月）
- 研修（23区版）の実施（令和4年9月）
- 研修（多摩地区版）の実施（令和4年11月）
- 報告会の開催（令和5年2月）

## 実施状況・成果

### 【実施状況】

- 当法人内でのヒヤリ・ハットの収集、分析、報告書の作成
  - ヒアリング対象者：約17名
  - ヒアリング時間：約95時間
  - 収集分析対象者：約6名
  - 収集分析時間：130時間以上
- モデル研修の開催
  - 開催日：2月23日、27日（各4時間）
  - 対象者：当法人内の支援事業スタッフ他、延べ56名
- 検討委員会（第4回～第13回）の開催
  - 開催頻度：月1回程度、約23時間
  - 出席者：専門家3名、スタッフ2名、アルバイト1名
- 制作会社との打合せ（第1回映像検討委員会）
- 映像撮影、編集についての協議など

### 【成果】

- 多種多様なヒヤリ・ハット事例の収集と分析は、ガイドブックや研修の内容案の土台となり、大きな役割を果たした。また、問題に対する改善案の提供となり、今後の訪問型家庭支援事業の安全性につながった。
- ガイドブックや研修の内容が充実するように、予定よりも多く検討委員会を開催し、専門家と経験豊富なスタッフでヒヤリ・ハット分析、ガイドブックの目次・項目、モデル研修の内容などを検討した。
- 映像での実践ツールをモデル研修で使用した際に、研修内容が分かりやすくなったと評価が得られた。



## 課題と対応

- 令和3年度にガイドブックを作成する予定だったが、モデル研修開催後に作成した方がより完成度が高いものになると判断し、予定を変更した。モデル研修開催後に講師と当法人スタッフで意見交換をし、参加者からも詳細なアンケートをもとに、令和4年度の研修内容とガイドブックを作成していく。

### ★ 団体にとっての効果 ★

- モデル研修には当法人の事務局やスタッフ、ベテラン支援者などが出席し多くの意見や改善点が出たため、検討委員会の専門家が令和4年度の研修内容を大胆に見直すこととなった。令和4年度の研修は、よりレベルの高い内容になると期待される。
- モデル研修では参加者に対し詳細なアンケートをとったため、個々が意識することでヒヤリ・ハットに対する認識が高まり、今後の活動への予防対応になることが期待できた。



所在地 ▶ 東京都足立区梅島3-4-8-203 URL ▶ <https://kosodatepalette.jimdo.com/>

## 産前産後サポートプログラム 「リアさぽさん」



### 実施期間

令和2年11月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	124,000円
令和3年度：	1,248,000円
合計：	1,372,000円

(賃金、報償費、消耗品費、印刷製本費、使用料・賃借料)

### 事業概要

- 子育て当事者（ママ）がひとりで抱え込まず、人に頼る子育てを産前産後から実践し、「産みやすい・育てやすい地域社会」の仕組みをつくる。
- 産前において、産後にできるだけスムーズに子育てに取り組めるような準備、ママのサポート体制・家族（夫）の協力の仕方、地域のつながり先が把握できるプログラムを推進し、ママ自身やその家族の養育力を高めるサポートをする。
- 産後1年くらいまでの広い視野で、産後のホルモンバランスの崩れ、思うように子育てや家事ができない、上の子にイライラするなどのママ自身やその家族のストレス軽減、養育力を高めるサポートをする。
- 事業内容は以下のとおり。

#### ●対象

- ①産前産後（産前・誕生～1歳を重点的に）  
ママ、パパ
- ②プログラム推進者（プログラムの波及効果を図るために育成）

#### ●提供するサービス内容

- ①産前：「産前準備クラス」、「パパニティクラス（両親学級）」を開催
- ②産後：「さよならイライラ育児®」、「パパニティクラス（両親学級）」、「ご飯付パパチカラ講

座」、「助産師中心のつながる子育て（助産師相談・交流・地域情報収集）」講座を開催

#### ③講師の養成

講座をひとつのメソッドとして講師を養成する。

#### ④サポートブック（冊子）の作成

各専門家の力を借りてサポートブック（冊子）を作成し、産前産後サポートの輪を身近なものとして東京全体に波及する。

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

- 活動拠点である足立区を基盤とし、東東京にプログラムを波及する。
- 東京中央部／西東京の2つの核となる推進舞台を作る。

#### 【事業計画】

##### 〈令和2年度〉

- 「さよならイライラ育児®」講師養成講座のテキストおよびオンライン講座の開発
- 「産前準備クラス」「助産師つながる子育て」の内容精査

##### 〈令和3年度〉

- 「産前準備クラス」講師養成講座のテキストおよびオンライン講座の開発
- 産前産後ママ・パパ対象講座の開催（計14回）

- ①「産前準備クラス」：年2回
- ②「さよならイライラ育児®」：年2回
- ③「助産師つながる子育て」：年6回
- ④「パパニティクラス」：年3回
- ⑤「ご飯付パパチカラ講座」：1シリーズ6日間1回開催
- 「さよならイライラ育児®」「産前準備クラス」講師養成開始（計4回）
- 仮称：産前産後サポートブック（冊子）の内容検討〈令和4年度〉
- 産前産後ママ・パパ対象講座の開催（計12回）  
月1回ペースでプログラムメソッド（「産前準備クラス」「さよならイライラ育児®」「助産師つながる子育て」）を開催 \*必要に応じて保育付
- 産前産後サポートプログラムメソッド講師養成（計8回）  
3か月に1回（「産前準備クラス」と「さよならイライラ育児®」2コマ）
- 仮称「産前産後サポートブック」（冊子）制作・完成

## 実施状況・成果

### 【実施状況】

- 講師養成講座およびテキストの開発
  - 4月～9月：「産前準備クラス」「さよならイライラ育児®」講師養成講座およびテキストを開発した。
  - 3月：テキスト印刷
- 一般ママ・パパ対象講座の開催  
当法人拠点併設「Ohanaダイニング（貸スペース）」およびオンライン会議システムにて開催した。
  - 「産前準備クラス」：  
9/29（Zoom4名）、2/16（Zoom3名）
  - 「さよならイライラ育児®」：  
9/29（会場1名、Zoom2名）、2/16（Zoom3名）
  - 「助産師つながる子育て」：  
9/15（会場1名、Zoom2名）、10/11（Zoom4名）、  
12/8（会場1名、Zoom5名）、1/12（Zoom5名）、  
2/9（Zoom6名）、3/16（Zoom3名）
  - 「パパニティクラス」：  
9/18（会場4名、Zoom1名）、12/18（会場4名）、  
2/19（Zoom3名）
  - 「ご飯付パパチカラ講座」：  
1シリーズ3日間に変更して開催。11/12、11/19、  
12/3（会場6名）\*1/21、1/28、2/4を予定していたが  
コロナ禍のため中止。
- 講師になりたい方対象講座の開催
  - 「さよならイライラ育児®」講師養成講座：  
11/17（Zoom2名）、3/9（Zoom1名）
  - 「産前準備クラス」講師養成講座：  
10/27（Zoom2名）、2/14（Zoom1名）
- 仮称「産前産後サポートブック」（冊子）の内容検討（9月～構成思案）

### 【成果】

- 講座を受けた方から出産後に連絡があり、講座で学



んだことの大切さを実感していただいた。

- パパにとって、ママの本当の気持ちを理解するよい機会となり、夫婦のコミュニケーション方法にも変化が現れた。よい方向に向かっている家庭がほとんどだった。
- 参加者同士が交流し、つながりができたことが参加者の満足度向上につながった。
- 未知なる出産・育児へのイメージが頭では湧くようになり、一つひとつの不安解消へとつながった。

## 課題と対応

- 最も人が集まる「助産師つながる子育て」はマタニティ向けに必要な知識を6回に分けて開催したが、出産時期がそれぞれ異なり全て受けられる人が限られてしまうため、単発計画にした方がよいことが分かった。対応として、複数回参加される方も満足しつつ、どのタイミングで参加しても卒業してもよいテーマ設定にする。

### ★ 団体にとっての効果 ★

- 「子育ては誰かに頼るもの」「一人で抱えて頑張ろうとしなくていい」ということを、マタニティの時期から助産師やプログラムを通して伝えることで、出産後のママのマインドに大きな変化をもたらすことを実感した。子育てをするママが子育てへの自信のなさ、不安、悩みを周囲に話し、困った時は助けを求めらることで、精神的なダメージを極力最小限に止め、乗り越えられることが分かった。
- ママはパパに一番理解してほしい、という願望が大きいことが分かった。若い世代への今後のパパ教育の焦点にしていく。

## 11

# 特定非営利活動法人 ダイバーシティコミュ

所在地 ▶ 東京都立川市錦町1-4-4 サニービル2F URL ▶ <https://tsunagarugohan.com/>

## 多様な子育て環境のための【食】を通じて 支援する「ピアサポート」親子食堂

### 実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	1,195,000円
令和3年度：	3,587,000円
合計：	4,782,000円

(ホームページ開設費、賃金、報償費、旅費、消耗品費、印刷製本費、役務費、使用料・賃借料、委託費)



### 事業概要

- 多様な理由で困難を抱える家庭が地域に多くみられ、いわゆる一般家庭や定型発達児との環境や悩みの違いにそれぞれが困惑し、育児をする上で多くの不安を抱えている。そこで、子育て中には楽しみでもあり、悩みの原因ともなる【食】を通じて、共感しあえる仲間との出会いの提供にもなるピアサポート活動を行うために、「ピアサポート親子食堂」を1か月に2回程度開催する。
- 各親子食堂では、①セミナーや講演会で情報提供を行い、その後各グループにあった②食の提供、③ピアサポートによる交流会を実施する。提供メニューやセミナー、講演会の具体的な内容は、地域におけるそれぞれのピアサポート団体に協力を仰ぎ、事前に調査および相談する。提供メニューは現役の保育園給食スタッフ（調理師・保育士）がそれぞれの児童や家庭環境に沿ったメニューを考案、調理し、提供する。セミナーや講演会は必要であれば別室保育付きとし、保護者にゆったりとした時間を提供し子育て負担も軽減する。
- 【食】をテーマにしたピアサポート親子食堂の対象グループは以下のとおり。
  - ①発達障害児 親子ピアサポート食堂  
(土日昼、3か月に1回程度)

発達障害児は味覚・感覚過敏で食にこだわりを持つことが多いため、食べないことに悩みを持つ保護者に、様々なケースを意識したメニューを提供する。

- ②食物アレルギー児 親子ピアサポート食堂  
(平日昼、3か月に1回程度)  
アレルギー代替食などを活用し、足りない栄養素を考慮したメニュー、アレルギー児が楽しめるメニューを提供する。
- ③多胎児 親子ピアサポート食堂  
(平日昼、3か月に1回程度)  
時間や手が足りない多胎児育児中の親に、双子に同時に食べさせやすいメニュー、時短料理や簡単作り置きメニューを提供する。
- ④ひとり親家庭 親子ピアサポート食堂  
(土日昼、3か月に1回程度)  
時間や手が足りないひとり親に、時短料理や簡単作り置きメニュー、後片付けラク料理法やリメイク料理などのメニューとレシピを提供する。
- ⑤未就園児 親子ピアサポート食堂  
(平日昼、3か月に1回程度)  
転勤で引っ越してきたばかり、近くの地域に両親、親戚、知人がいない、はじめての育児で不安がいっぱいなどの理由で、孤立・孤育てにならないよう地域の情報交換ができる場と、添加物を使

用せず、安全安心なメニューを提供する。

#### ⑥地域の多世代交流食堂

(平日夜、3か月に1回程度)

高齢者や貧困家庭、保育園帰りの親子など、地域の誰でもが参加できる食堂を開催し、地域でのつながりの提供、見守りの役割を果たす。また、多様な家庭環境、児童への育児中ではない世代の理解促進を促す。

※新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、オンライン講座およびテイクアウトでの食事の提供などに支援方法を変更する。

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

- ピアサポート食堂の年間開催回数、利用者数
  - 令和2年度：8回、160名  
(10組 [親子20名] × 2回 × 4か月)
  - 令和3年度：24回、480名  
(10組 [親子20名] × 2回 × 12か月)
  - 令和4年度：24回、480名  
(10組 [親子20名] × 2回 × 12か月)
- ホームページで情報提供、活動報告をすることでアクセス数をあげる。
- 参加者に対するアンケート：「参加してよかった」の回答が全体の80%以上を目標
- 各種支援団体へのメンバー加入

#### 【事業計画】

- 事業スケジュール
  - 令和2年10月  
ホームページおよびチラシ制作、広報開始、各種支援団体との打合せ(セミナー、メニューの考案)、ボランティア受付
  - 令和2年11月  
広報活動(SNS更新、チラシ配布)、各種支援団体との打合せ
  - 令和2年12月～令和5年3月
    - ①ピアサポート食堂開催  
(平日午前午後2回・土日1回) / 月開催
    - ②広報、各種支援団体との打合せ
- 実施場所：立川市保育園、レンタルスペース、ふれあいセンター、商店街協力店舗
- 参加人数：参加者10組(親子20名程度)、ピアサポーター3名程度/回

### 実施状況・成果

#### 【実施状況】

- 親子食堂イベントの実施  
1か月に2回のペースでいずれかの親子食堂イベントを実施した(計18回、延べ307名参加)。  
コロナ禍のため感染状況を見ながら実施し、2月および3月は中止した。
- 広報および普及活動
  - 各月のイベントごとにWeb告知およびチラシを制



作り配布した。また、各ピアサポート団体のSNSなども活用し告知した。

- 地域の個店飲食店とひとり親家庭に恵方巻を贈るプロジェクトを協働で開催し、ひとり親家庭への支援と事業の普及活動を行った。

#### 【成果】

- 地域で活動するピアサポート団体を招き、講習会やワークショップ後に座談会を開催することで、情報共有や特殊な状況下でのノウハウを付与することができ、参加者の不安解消につながった。
- コロナ禍のため食事はお弁当の持ち帰りに変更したが、調理スタッフがレシピを配布し、時短、栄養面、節約方法などのアドバイスをを行い、好評だった。
- ピアサポート団体へは、コロナ禍で活動ができない中イベントを開催する機会を提供できた。

### 課題と対応

- 参加者数を増やすことが課題。広報活動の一つとして、連携団体や他団体とコラボしたイベントなどを多く企画し、当事業の認知拡大に努める。

#### ★ 団体にとっての効果 ★

- 立川市、武蔵村山市、小平市地域への認知シェアが拡大した。
- 地域の子育て支援団体や親の会との連携が強化された。地域の多世代交流では、寄付活動を通して地域の企業や団体と連携できた。
- それぞれの課題に特化した団体と関わり、課題や置かれている状況、ニーズを確認することができた。他団体を通じた告知を行うことで、当法人の認知度が高まった。
- 地元企業や商店街から寄付をいただき、参加者にギフトとして配布したり、寄付活動を行ったりした。当該企業の社員に対しても告知していただき、一般の方への当事業の理解促進にもつながった。
- 法人としても、この活動に関心を寄せていただいた清瀬市からピアサポート団体を支援する事業を受託し、活動を広げることができた。



# 12

## 特定非営利活動法人いけぶくろ大明 共同提案法人：特定非営利活動法人 SLC

いけぶくろ大明所在地 ▶ 東京都豊島区池袋3-30-8 URL ▶ [http:// www.toshima.ne.jp/~taimei/](http://www.toshima.ne.jp/~taimei/)  
SLC所在地 ▶ 長野県伊那市野底7712番地6 URL ▶ <https://www.facebook.com/slcjp/>

### ミニ東京・こどもタウン



#### 実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

#### 助成額

令和2年度：	1,800,000円
令和3年度：	3,686,000円
合計：	5,486,000円

(賃金、報償費、旅費、消耗品費、印刷製本費、役務費、委託費)

#### 事業概要

- 経済状況および家庭環境などに関係なく、高度な学習カリキュラムと学習を社会で活用することで、自分の力で学びを継続することができる仕組みを構築する。将来の経済的な自立を促進し、将来安心して家庭を築けるよう支援を行い、本仕組みにより家庭の経済的な負担を軽減する。
- 事業内容は以下のとおり。
  - クエスト（職業体験）  
商店街や企業などからクエストを依頼していただき、受講生は講座の学びを活用しクエストに取り組み、達成すると専用通貨を受け取ることができる。専用通貨は、講座の受講や将来的には地域通貨化し提携団体での使用を可能にする。
  - 探求講座  
様々な体験学習やマイプロジェクトなどを通して、自分の興味関心領域や得意不得意などを理解し、自分の軸を定めていく。
  - 探究講座  
クエストに必要な知識・技能を習得するための講座を開講する。大学の教職員や地域住民および企業人材などが講師や講座の監修を務める。

#### 成果目標・事業計画

##### 【成果目標】

- 講座開発数
  - 令和2年度：20講座（同期10・非同期10）
  - 令和3年度：45講座（同期20・非同期25）
  - 令和4年度：55講座（同期25・非同期30）
- 講座開講数
  - 令和2年度：同期24コマ
  - 令和3年度：同期96コマ
  - 令和4年度：同期192コマ・非同期36コマ
- 利用者数（延べ利用者数）
  - 令和2年度：10名（240名）
  - 令和3年度：10名（960名）
  - 令和4年度：10名（2,280名）
- クエスト提供個人団体数
  - 令和2年度：5名
  - 令和3年度：20名、5団体
  - 令和4年度：40名、10団体
- クエスト実施者数
  - 令和2年度：50名
  - 令和3年度：450名
  - 令和4年度：900名
- 利用者アンケート  
本事業の参加前後で自己肯定感が向上した割合：90%

今後も子どもに関連する地域貢献活動を継続したいと回答する割合：90%

○専用通貨利用率

専用通貨を使用した受講者数が受講生全体の20%

※同期：講師と参加者が対面し行う授業（オンライン上での対面を含む）

※非同期：講師が準備した動画や資料などにオンライン上でアクセスし、それを基に学びを進めていく授業

【事業計画】

○令和2年10月～12月

- 講座の開発
- クエスト団体などの募集準備
- オンライン授業および映像授業の実施準備
- 開講周知用チラシの作成および配布

○令和3年1月～3月

- 講座の開発
- オンライン授業の開講
- クエストの実施

○令和3年4月以降

- 講座の開発
- オンライン授業および映像授業の開講
- クエストの実施



実施状況・成果

【実施状況】

○対面授業（同期型講座）および映像授業（非同期型講座）の開発、開講

- 講座開発数：40講座（対面授業30講座、映像授業10講座）

主に企業と連携し、対面授業および映像授業を開発した。

- 講座開講数：延べ131コマ
- 受講者数：延べ254名

○クエスト（職場体験）の実施

- クエスト提供数：個人36名、団体（企業・自治体・町会など）5団体
- クエスト実施者数：延べ97名
- クエスト説明会：随時開催

※新型コロナウイルス感染症拡大による学級閉鎖や連携企業のテレワーク化、学校をはじめとする公共教育機関との連携の困難化などの影響を受け、受講生の募集や講座開発数などが目標に届かない結果となった。

【成果】

○講座参加者満足度（10点満点）

- 保護者平均：10点
- 参加者平均：9.04点

○自己肯定感

- 自己肯定感の向上：自信がついた70%
- 働いてお金がもらえてどうだったか：達成感があった100%

○専用通貨利用率目標：20%

- 専用通貨を使用した受講者数：16%
- 専用通貨を使用した文具などの購入：72%

○クエスト提供者へのクエスト、Tek（専用通貨）の効果および社会貢献意欲に関するアンケート

- 未実施（新型コロナウイルス感染症の影響などにより、提供期間が短い、未実施のクエストがあるため、来年度末に実施を予定。）

課題と対応

○児童・生徒の集客の強化が課題。児童・生徒およびその保護者層に情報を届けるため、チラシ配布の頻度やエリアを広げるなどの対応を行うとともに、Webでの情報発信をより強化した。

○生活困窮世帯においては、新型コロナウイルス感染症による影響で環境がより悪化しており、子どもを参加させる余裕がないとの意見がある。そのため、行政や社会福祉協議会との連携を強化し、生活困窮世帯の児童・生徒の参加ハードルを下げていく。（具体的な対応としては、会場までの付き添いをスタッフやボランティアが行う、申込代行を行うなど。）

団体にとっての効果

●同期型・非同期型の授業開発に必要なスキルを持った人材および団体と十分に連携を取り、授業開発を行うことが可能となった。

●チラシのみではなく、SNSをはじめとするWebでの広報を強化したことにより、豊島区内の参加者のみならず、練馬区や西東京市など、これまで参加のなかった地域からの参加が増えた。

## 「社会的養護施設職員のための相談窓口」を設置し、職員が安心して働けるサポート体制の確立



### 実施期間

令和2年7月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	1,314,000円
令和3年度：	2,936,000円
合計：	4,250,000円

(ホームページ開設費、賃金、消耗品費、印刷製本費、役務費、委託費)

### 事業概要

- 「社会的養護施設職員のための相談窓口」を設置し、職員が安心して働けるサポート体制の確立と持続的な離職率の低下を目指し、子どもの自己肯定感の回復と明るい未来の創出に寄与する。
- 社会的養護業界には専門の相談機関は存在せず、職員の心のゆとりを確保し、子どもへの良質な支援を実現するためのサポート体制が整っていない。その現状に輪をかけて、新型コロナウイルス感染症の流行により、職員への身体的・精神的負荷は高まり、サポート体制が整っていない現状では、更なる離職率の悪化が懸念される。
- そのため、当法人が運営している情報ポータルサイト「社会的養護総合情報サイトチャボナビ (<https://chabonavi.jp/>)」に登録している都内の社会的養護施設職員を中心にオンライン研修会を開催し、参加した施設職員に相談窓口の告知を行い活用してもらうことで、継続的に勤続できるサポート体制を構築する。
- 事業内容は以下のとおり。
  - 対象 都内の社会的養護施設職員（施設長を含む）
  - 相談窓口の体制
    - ・元児童養護施設職員
    - ・顧問：児童養護施設長、弁護士（労務問題、子どもの人権問題）、社会保険労務士、心理士
  - 相談内容
    - ①ハラスメント（セクハラ、パワハラ、いじめなど）
    - ②人間関係
    - ③人事労務関係（残業、休日出勤、評価、手続など）
    - ④職場環境（分煙、安全管理、危険箇所など）
    - ⑤不正、違反（法令、就業規則、業務マニュアルなど）
    - ⑥問合せ（しくみ、プライバシーの保護など）

- ⑦その他（勤務態度、会社の対応、個人の問題など）
- ⑧経営相談（人員配置、マネジメントなど）

### ●相談窓口の特徴

- ①元児童養護施設職員が相談窓口にいることで、相談者が置かれている状況や心情をより理解できる
- ②社会的養護業界へ理解が深い専門家と連携し、相談に対応できる
- ③電話・対面ではなくチャットで気軽に相談できる
- ④完全匿名で無料相談ができる

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

- 新型コロナウイルス感染症で疲弊する社会的養護施設（児童養護施設・自立援助ホームなど）の職員向けに相談機関を設立し、離職を防ぐ。

#### 〈令和2年度〉

- チャボナビ掲載施設を中心に都内の社会的養護施設に対して、経営者向け研修会を開催（年度内に1回以上）。相談窓口の告知を行う。  
目標施設数 10施設  
目標職員数 500名  
(10施設×1施設あたり職員約50名)

#### 【事業計画】

#### 〈令和2年度〉

- 試験運用的に、チャイボラと施設職員で運営を開始した全国社会的養護施設職員のLINEによるオープンチャットを公開（令和2年7月～8月）
- チャボナビにて告知を行い、上記オープンチャットによる相談窓口の試験的運用開始（令和2年9月）
- 相談窓口の体制完備、アプリ開発、都内での告知開始（令和2年9月～11月下旬）
- 都内での運用開始（令和2年12月）

○5つ以上の児童養護施設および職員へ展開し、パイロット運用を開始（～令和3年3月）

＜令和3年度＞

○都内の児童養護施設（約60施設）のうち、約半数の30施設へ展開（～令和3年12月）

＜令和4年度＞

○都内の児童養護施設（約60施設）へ展開（～令和4年12月）

実施状況・成果

【実施状況】

○相談窓口の運営体制および研修体制の強化

●相談窓口のメンバーとして、元児童養護施設職員を新たに2名採用した。

●研修会後のアンケートにより、施設職員のニーズ調査ができた。

●12月にこれまでの研修参加者全員にアンケートを送り、研修内容のニーズ調査も実施した。

○相談対応の質の向上および返答スピードの向上

●相談件数：都内の相談利用登録19件、相談24件（同じ相談者から複数相談あり）

●相談内容：職場環境23%、人間関係17%、ハラスメント15%、人事労務12%、不正・違反9%、法律・制度9%、その他15%

●元児童養護施設職員の経験をもとに複数人で話し合い返信案を作成し、営業時間内の相談は即日対応を心掛け、遅くとも3日以内の返信を徹底した。

●相談終了後にケースの振り返りを行い、質の向上、対応の定型化や紹介する第三者機関をパターン化することで、同じような相談があった際にはポイントを押さえた対応ができるようになった。

●法人内で週1回定例会を行い、対応の振り返りや管理者視点でのスーパーバイズも行った。

●前年度に引き続き、弁護士、社会保険労務士、施設長、心理士を交えたミーティングを月1回開催した。

○相談窓口告知カードの発送

●希望する都内の社会的養護施設（20施設、個人宛を含む）に対し、告知カードを計575枚配布した。

○チャボナビ掲載の都内施設へ研修会の告知

●チャボナビに掲載している都内の社会的養護施設（60施設）に直接メールを送り、研修告知チラシを送付した。

○研修会の開催

●施設長・管理職向け研修会：8回開催

●一般職員向け研修会：20回開催

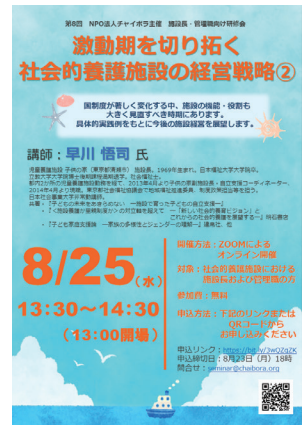
●延べ参加者数：460名

○チャボナビ未掲載の都内施設へ冊子の発送

●チャボナビに掲載していない都内の社会的養護施設（30施設）に冊子を郵送し、後から電話を掛け、必要な施設には当法人事業の詳細について説明も行った。母子生活支援施設などの掲載につながったり、掲載には至らなかったが研修に参加してくれた施設もあったりした。

【成果】

○相談開始から終結までの期間は概ね1か月が多いが、終結までに4か月を要したものもあった。問題解決型の相談と伴走支援が必要な相談がある。時期によって相談内容や相談者層の傾向があることも把握できた。悩みに寄り添い話を聞くことで、仕事継続への意欲を取り戻した方もいる。職場外で中立的に話を聞いてもらいたいという声もあり、相談できる外部機関へのニーズが感じられた。施設内で抱え込んでいる課題や職員が疲弊している現場の状況、退職に向かう職員の気持ちなども見えてきた。



○相談終結後のアンケートでは「また利用したい」が92%であり、リピーターもいた。

○研修ごとに実施しているアンケートの回答結果では、内容の満足度（1～5段階評価、1：不満足、5：大変満足）が平均4.0以上の回が28回中27回だった。27回のうち満足度4.4以上の回は約7割で、研修内容は現場のニーズに応えられたと感じる。

○研修内で相談窓口の案内や当法人の説明を丁寧に行ったことで、利用のしやすさや社会的養護の専門性の高さ、匿名利用などをアピールし、安心感を与えることができた。

課題と対応

○施設側の担当者や管理職で相談窓口や研修会の情報が止まり施設内で共有されない場合があるため、施設職員に告知できるような方法を検討する。主にメールで案内を行っているが、施設ではまだ紙媒体が主流なため、研修チラシの郵送などを改めて行っていく。

○研修参加者は、精神的にも身体的にも比較的余裕がある人が多い。悩んだ時に相談できる窓口の存在を把握していることは今後のために重要だが、すぐに利用につながらない層であり、より深刻な状況にある職員や施設に対してのアプローチができていない。集客が多く見込まれる内容（子どもの対応方法、障害理解など）を意識して研修テーマを設定してきたため、メンタルヘルスなど相談者層にフォーカスした内容を検討していく。

○職員同士の横のつながりやピアサポート的な関わり、施設の取組のシェアの重要性を感じているため、講義型の研修だけではなく座談会・交流会も設定し、職員の孤立感や行き詰まり感の解消を目指す。

Graphic titled '団体にとっての効果' (Effects for Organizations). It lists three key outcomes: 1) Increased staff and improved consultation system/training system leading to faster responses. 2) Encouraging participation in training through consultation window users. 3) Addressing small-scale and regional diversification issues through consultation windows and reflecting staff needs into training themes. It also mentions that business strategies are being reflected in consultation responses and training content.

## つながりプロジェクト



### 実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	1,836,000円
令和3年度：	2,431,000円
合 計：	4,267,000円

(備品等購入費、消耗品費、役務費、使用料・賃借料)

### 事業概要

○児童養護施設を退所した子どもたちに食材などを届けることで、退所後の以下のような状況における課題の解消につなげる。

- 連絡がとれなくなってしまう
- 早婚・母子家庭が多い
- 転職・アルバイトで生計を立てている
- 自ら動けない

○社会的養護者の生活困窮の救済

食材による物的支援、施設とのつながりによる人的支援により、退所者の孤立を防ぎ、生活の安定、意欲の向上、支援団体や関係機関とのつながりを持つような支援につなげる。

○母子家庭支援による「負の連鎖」の断絶

食材の支給による生活の余裕、他者とのつながりを実感することによる精神的安定などにより、ゆとりをもった子どもの養育につながる。また施設と直接定期的につながっているため、何かあった場合の相談がしやすくなり、母子家庭や貧困による虐待の連鎖が解消されることが期待される。

○届ける物品は主に食材や日用品などニーズに合わせて用意し、直接顔を見ることができるよう、初年度は施設職員もしくは施設とつながりのあるボランティアが郵送ではなく直接届けに行く。次年度以降は、引き続き直接届けることも行いつつ、定期的に倉庫を開き、食材などの支援を通して来園してもらうことで、継続的なつながりを構築していく。

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

- 令和2年度：52名  
(現在当施設から18歳以降で10年以内に退所した86名のうち、連絡先を把握できている52名を対象とする)
- 令和3年度：100名
- 令和4年度：150名  
(2年目以降は、近隣の児童養護施設と協働し、1年目のノウハウを活かしながら、支援の幅を広げていく)
- 半年に1度、食材や日用品などを直接届け、毎回アンケートをとり、必要な物品の把握をすると共に満足度90%以上を目指す。



### 【事業計画】

- 令和2年9月～11月  
退所者情報の整理、収集、支援団体に趣旨を説明、連携調整、近隣児童養護施設に趣旨を説明、協力依頼
- 令和2年12月～令和3年3月  
配達対象人数の確定、食材調達、食材配達、アンケート集計
- 令和3年4月以降  
倉庫準備、完成、倉庫の定期開放、近隣施設との情報共有会（月1回）、支援団体との情報共有会（不定期）、退所者リストの更新（年2回）

## 実施状況・成果

### 【実施状況】

- 57名の退所者（※退所後10年以上も含む）を対象に継続的、定期的に直接物品を届けるとともに、物品配布のために施設を開放した。
  - 7月：支援用の車両購入
  - 9月：備品（棚）購入
  - 4月、5月、7月、9月、10月、11月：支援団体より食材などを受取り
  - 4月、5月、7月、10月、2月、3月：21名（延べ38名）に食材などを直接宅配した。
  - 7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月：施設を開放し、36名（延べ110名）に食材などを配布した。
- 過去10年以内の退所者との連絡ツールとして、名簿およびLINEアプリにて卒園年度別のグループを作成し整理した。
- LINEおよびInstagramを通して退所者にプロジェクト概要を告知した。

- 近隣の児童養護施設、支援団体との事業開始に向け、情報共有をした。（児童養護施設6施設、支援団体3団体）

### 【成果】

- 母子家庭もあり、物品の配布はとても喜ばれた。
- 退所者が施設に気軽に来られる機会となっており、そこから相談、支援につながるケースもあった。退所者の孤独、孤立感が緩和された。
- 支援団体と情報共有することで、ニーズに合った物品を寄付していただけた。

## 課題と対応

- 当法人施設の解体工事の遅れにより、備蓄倉庫の設置時期が先延ばしになってしまい、寄付物品の保管場所の確保が難しくなっている。会議室など当法人施設内の空いているスペースに一時的に保管し、対応している。

### ★ 団体にとっての効果 ★

- プロジェクト実施のために退所者の情報を整理し、生活状況なども確認することで、今後のアフターケアへの見通しができた。
- 「つながりプロジェクト」を通して退所者の生活状況をより明確に把握できるようになり、具体的な支援につなげることができたケースもあった。
- 他支援団体との連携が強化され、支援の幅が広がった。

所在地 ▶ 東京都渋谷区桜丘町30-12 URL ▶ <https://lightson-children.com/>

## 児童福祉施設の職員に向けた ITセキュリティ、ITリテラシーの研修



### 実施期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	1,010,000円
令和3年度：	1,437,000円
合 計：	2,447,000円

(備品等購入費、報償費、消耗品費、役務費、委託費)

### 事業概要

- 児童の最大の利益のために、児童養護施設などに入所している児童が生活の中でITに触れる機会を確保することを最終的な目的として、養育者である職員が必要なITセキュリティ対策、ITリテラシーを身につけるための研修を開発し、施設に提供する。
- 社会的養護で養育者の役割を担う施設職員は学んだことを活かして、児童のIT利用の管理体制を点検・見直すとともに、入所児童にセキュリティ対策やリテラシーを伝えていくことが期待される。
- 事業内容は以下のとおり。
  - 「児童福祉施設でITを活用するためのサイト」を開発し、コロナ禍やオンライン授業などに関係する事項を解説する記事を児童養護施設向けに掲載する。
  - 児童養護施設などの職員に向けて、一般的に事業者に期待されているITセキュリティ対策と、家庭に期待されているITの安心・安全な利用のポイントを教示し、職員一人一人のIT活用を促し、セキュリティ能力を高めるための研修を作成する。
  - 研修講師として適任者を2名選定する。ITのバックグラウンドを持つ人を想定しているため、講師には事前に社会的養護に関する必要な研修などを行い、本事業の研修講師として養成する。

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

- 研修を実施する回数

- 令和3年4月～令和4年12月：計25回

- 受講者への事後アンケート

- 受講者への事後アンケートで、「施設で職員のITセキュリティ対策やITリテラシーを向上する上で、この研修は役立ったか」の質問に対し「とても役立った」「役立った」の回答が全体の60%以上、および「施設で児童のIT活用を広げたり、ITの濫用を防止したりする上で、この研修は役立ったか」の項目に対し、「とても役立った」「どちらかというように役立った」の回答が全体の60%以上を目標とする。

#### 【事業計画】

##### 〈令和2年度〉

- 4月～8月：「児童福祉施設でITを活用するためのサイト」開設、研修内容の策定
- 9月以降：研修用の資料作り、研修講師の選定とトレーニング、児童福祉施設へ研修の案内を通知、申込受付

##### 〈令和3年度〉

- 4月以降：研修を開始

##### 〈令和4年度〉

- 1月以降：報告イベントの開催、報告書の取りまとめ

### 実施状況・成果

#### 【実施状況】

- 研修の開催

- 子どもや職員一人一人に知ってほしいことをまとめた「ユーザーの安心・安全」編と、組織として取り組むべきことをまとめた「組織の情報セキュ

リティ」編を用意し、施設側にいずれか一方または両方を選んでいただき、1施設ごとZoomによりリモート開催した。(各コース1回90分)

●令和3年5月～12月

12施設(児童養護施設7か所、母子生活支援施設5か所)にて開催

・ユーザー編：15回、239名(アンケート回答数)

・組織編：8回、58名(アンケート回答数)

組織編は上位職を主な対象にしているため、受講が少なかった。

●施設側受講者は会議室などに集まって受講する場合もあれば、各ホームなどからそれぞれZoomにアクセスして参加する場合もあった。いずれにせよ、ビデオ会議によって感染リスクを抑えられる点と、シフト勤務の中で移動時間を節約できる点は概ね好評だった。当法人は講師の他にスタッフ1、2名が自宅から参加し、通信トラブルなどに対応できる態勢をとった。

●ユーザー編・組織編とも、事前・事後に施設側の担当者と打合せをし、受講者アンケートをとった。施設内の課題や疑問を前もって把握し、研修当日の質疑や事後のフィードバックを通じて一緒に解決するよう一定の工夫をした。

○情報サイトの更新

令和2年度に開設した「児童福祉施設でITを活用するためのサイト」には、助成事業や他事業での知見を踏まえ、新しく4本の記事を公開した。

【成果】

○「ユーザーの安心・安全」編の効果

受講者アンケートで「施設で児童のIT活用を広げたり、ITの濫用を防止したりする上で、この研修は役立ちましたか?」と尋ねたところ、「とても役立った」158名(66%)、「どちらかというと役立った」71名(30%)、「どちらともいえない」「どちらかというと役立たなかった」計10名(4%)だった。助成申請時の目標(「とても役立った」「どちらかというと役立った」の回答が全体の60%以上)を達成できた。

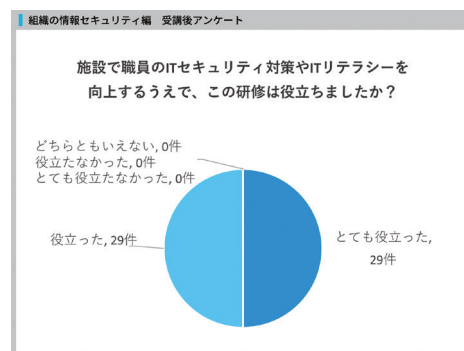
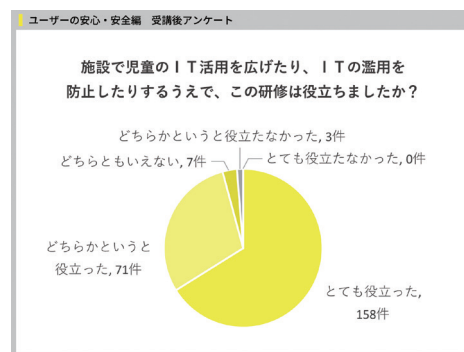
○「組織の情報セキュリティ」編の効果

受講者アンケートで「施設で職員のITセキュリティ対策やITリテラシーを向上する上で、この研修は役立ちましたか?」と尋ねたところ、「とても役立った」29名(50%)、「役立った」29名(50%)だった。助成申請時の目標(「とても役立った」「役立った」の回答が全体の60%以上)を達成できた。内容が難しすぎるのではないかとの声もあったので、10月以降は難易度も尋ねたところ、「ちょうどよかった」14名、「難しかった」5名だった。

課題と対応

○研修内容を「ユーザー編」「組織編」と分けたが、それぞれの対象者層の想定が施設側に十分伝わらなかった。「組織編」はIT管理の担当者や管理職・経営層を想定しているが、よく分からずに受講したと思われる人もいた。受講前のオリエンテーション資料を作成し、施設側の担当者が施設内であらかじめ共有できるようにすることも検討する。

○受講者アンケートでは「もう少し具体的な話が聞きたい」という声が多かった。今回の研修は、ITセキュリティ、リテラシーの全体を概観できる代わりに、各論を掘り下げる時間がとれなかった。また、



セキュリティの話題を一通り取り上げることを重視した結果、リスクや注意点に偏った内容になり、子どもとICT、職員とICTの間にあるポジティブな可能性を取り上げることができなかった。セキュリティに関する負担(注意点、制約)は、本来はそれに見合うメリット(利便さ、新しい学び、楽しさ)とセットで取り入れることで真の納得が得られるはずである。令和4年度は、より具体的で前向きな内容を扱うための「第2弾」の企画として、各論を掘り下げ毎回違う話題や内容とし、特にユーザー編は正解が見えにくい話題を扱うため、「研修」というよりは受講者を交えた「座談会・意見交換会」のような形も検討する。

○ビデオ会議という形式であり、多くの場合は何人も受講者が1台のパソコンで参加していたので、受講者が発言しにくく、質疑応答では挙手して発言する人が一定数いたが、活発な議論には発展しにくい状況だった。新型コロナウイルス感染症の状況次第だが、第2弾研修は対面で開催してみたい。

**★ 団体にとっての効果 ★**

- 社会的養護の施設における子ども・職員のICT利用について、施設ごとの対応状況や、課題・懸念となっている点を直接把握することができた。また、入所する児童や母子世帯に向けてもレクチャーをしてほしいという要望をいくつかいただいた。総じて、当団体がこれからどのような役割を果たせるのか、より明確に描けるようになった。
- 子どもの権利擁護や主体性を養うことについて、情報セキュリティやプライバシーの観点から捉えなおす機会になった。安全のために大人が管理することも必要だが、プライバシーや情報へのアクセスについて、子どもの自己選択・自己決定の力が伸びるよう支援することも重要ではないかという気付きは、この事業や他事業の企画・実施に新しい指針を与えるものだと考えている。





所在地 ▶ 東京都八王子市元横山町2丁目6番23-605号 URL ▶ <https://foodbank-tama.com/>

## 新型コロナウイルス対策のフードパントリー事業



### 実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	220,000円
令和3年度：	2,717,000円
合計：	2,937,000円

(ホームページ開設費、賃金、旅費、消耗品費、印刷製本費、役務費、使用料・賃借料、委託費)

### 事業概要

○新型コロナウイルス感染症の影響により、生活困窮世帯が増加傾向にある。そのための有効な取組としてのフードパントリー事業を、日野市のフードパントリー事業の経験を生かして各市のフードバンク団体と連携しつつ更に発展させることで、八王子市、立川市、昭島市などの生活困窮世帯への食料支援を行う。

○事業内容は以下のとおり。

#### ●八王子市での取組

ひとり親家庭（25世帯）へ毎月個別食料支援を行う。また、八王子市子どものしあわせ課と連携し、市内各所の子ども家庭支援センターに来所するひとり親家庭への食料支援を行う。市内子ども食堂への食料支援も行う。

#### ●立川市、昭島市などのフードバンク団体などへの後方支援

立川市、昭島市などのフードバンク団体などが推進するフードパントリー事業を、当法人が後方支援することで、多摩西部における主にひとり親生活困窮世帯の食のセーフティネットを構築する。

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

○パントリー支援頻度（月当たり）

支援件数（年間）・支援人数（年間）

令和2年度：支援頻度月1回

支援件数330件・支援人数660名

令和3年度：支援頻度月1回

支援件数660件・支援人数1,320名

令和4年度：支援頻度月1回

支援件数660件・支援人数1,320名

#### 【事業計画】

##### 〈令和2年度〉

○備品・消耗品・食品購入（令和2年10月～12月）

○毎月1回、ひとり親生活困窮世帯などへの個別配布を実施

##### 〈令和3年度、令和4年度〉

○毎月1回、ひとり親生活困窮世帯などへの個別配布を実施

○各市のフードバンク団体と打合せ・調整

## 実施状況・成果

### 【実施状況】

- 八王子市自立支援課との連携
  - ひとり親支援施設1か所、子ども家庭支援センター3か所、こども食堂3か所へのフードパントリー活動を推進し、必要な食品パッケージを提供した。
  - 頻度：毎月1、2回
  - 提供数：延べ2,500件
- 八王子市、立川市などの児童福祉施設やこども食堂への食料支援活動
  - コロナ禍により受益者の要望が高まり、対応した。
  - 提供数：延べ1,704件
  - 提供食品重量：45,760キロ
- 立川市、小平市などのひとり親生活困窮世帯に対する個別的な食料支援活動
  - コロナ禍の負の影響が特に高まったことで受益者の要望が著しく高まり、食品を配布した。
  - 提供数：延べ1,824件
  - 提供食品重量：1,805キロ
- 夏休み、冬休みに子ども支援プロジェクトを実施
  - 立川市、小平市、八王子市において、子育て中の生活困窮世帯に食品類やクリスマスケーキを配布した。
  - 提供数：延べ723件  
(夏休み410件、冬休み313件)

### 【成果】

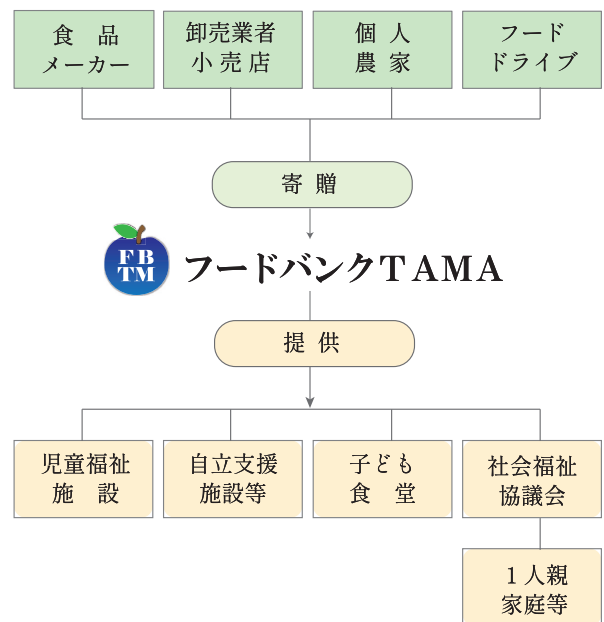
- 各市の関係課、社会福祉協議会、子ども食堂、こども食堂ネットワークなどと連携し、多くのひとり親家庭へ食料支援ができた。
- 当法人フードバンクが支援する食品量が豊富なため、当法人フードバンクへ食品提供する人が増えた。フードバンク利用者の満足度も極めて高かった。

## 課題と対応

- 集荷する食品量およびそれを確保するための労働量の増大化が課題。対応として、専従スタッフおよびボランティアスタッフを確保した。



### 食品寄贈⇒提供の流れ



### 団体にとっての効果

- 各市の関係機関と連携したことで、組織への効果としてボランティアスタッフが増え、対外的波及効果として、地域における当法人や当事業の認知が拡大した。

所在地 ▶ 東京都千代田区内神田1-8-9 URL ▶ <https://www.asdessin.org/>

## 多様な大人との出会いの場をつくる オンラインのキャリア教育授業



**8種類目の動物タイプ**

アスデッサンでは、ユングの心理学的類型論をベースにした性格タイプを動物に例えて分類しました。自分ほどの動物に近いと思えますか？ 周りにいる友達とはどんなタイプで合わせてみたいかな！

- ライオンタイプ**  
強く責任感のあるリーダー  
あなたはクラスや部活の中で中心的存在になれるリーダーの素質があります。人の意見を聞いて自分の考えをまとめる、周囲の状況に応じた対応、周囲の期待に応えるなどで、しっかりと止まる止まれが、大人から求められる素質を身に付けているかもしれません。
- イルカタイプ**  
可能性を伸ばし続ける探検家  
あなたは物事を好奇心を持って、楽しみながら進んでいく新しい挑戦も苦手ではありません。あなたの心は好奇心でいっぱいであって、いろいろな方法を試してみたいという気持ちは、周囲の期待を振り切ることができるかもしれません。
- イヌタイプ**  
愛されたいのムスメメーカー  
あなたは人から愛されたいのムスメメーカーです。自分に打ち込むことができる人、自分の考えを伝えることができます。周囲の期待に応えることができる人、周囲の期待に応えることができます。
- フクロウタイプ**  
遠慮に賢いでもっともな研究者  
あなたは遠慮に賢いでもっともな研究者です。周囲の期待に応えることができる人、周囲の期待に応えることができます。
- ワンタイプ**  
好奇心で勝負し続ける勇者  
あなたは好奇心で勝負し続ける勇者です。周囲の期待に応えることができる人、周囲の期待に応えることができます。
- サルタイプ**  
今を全力で生きるエンターテイナー  
あなたは今を全力で生きるエンターテイナーです。周囲の期待に応えることができる人、周囲の期待に応えることができます。
- ネコタイプ**  
自分の世界をもつ繊細な自由人  
あなたは自分の世界をもつ繊細な自由人です。周囲の期待に応えることができる人、周囲の期待に応えることができます。
- クジャクタイプ**  
センスが光る個性豊かな芸術家  
あなたはセンスが光る個性豊かな芸術家です。周囲の期待に応えることができる人、周囲の期待に応えることができます。

ロールサイトで自分の動物タイプが診断できる！  
(社会人の学生時代や仕事のエピソードも読めるよ)

### 実施期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	211,000円
令和3年度：	92,000円
合計：	303,000円

(印刷製本費、役務費、使用料・賃借料)

### 事業概要

- 子育てとは、子どもが自立できるようになるまでサポートすることであり、当法人が取り組むオンラインキャリア教育事業は、子どもが目指す将来へたどり着く一助になるという点で、子育て支援に結びつく。
- 子どもたちは、家庭や学校、塾など限られた機会ではしか大人とコミュニケーションをとる機会が無く、実際に活躍している社会人の姿を具体的にイメージすることが困難な状況にある。特に新型コロナウイルス感染症の影響により、休校が続く、この課題は一層深刻なものとなっている。
- 後悔の無い将来を決めるためには、どのような選択肢があるかを明確に把握することが必要である。当法人のオンラインキャリア教育事業は、社会人とのコミュニケーションを通して、子どもたちに様々な選択肢があることに気付いてもらう。加えて、更にもう一步踏み込み、子どもたちが目標の達成に至る道筋を決めるまで伴走することで、実行性のある取組とする。

○事業内容は以下のとおり。

#### ●ミライドア

主に中高生を対象として、オンライン会議ツールを用いてface to faceでキャリアに関するオンライン授業を行う。

SNSやウェブページなどでミライドアに関する周知・募集を行い、希望する生徒とオンライン上で双方向型の授業を行う。社会人から進路選択や現在の仕事に至るまでのストーリー紹介をするとともに、生徒とのフリートークを通して、進路選択やキャリア形成に関する不安を解消していく。生徒一人に対して、社会人1～2名と話す少人数セッションを複数回実施する形式をとり、毎月2回(各回40名程度を想定)の頻度で授業を実施する。

#### ●アスデッサンオンライン

ミライドアに参加した生徒を主な対象として、オンラインツールを用いたテキストベースのコミュニケーションを行う。短時間のセッションでは、どうしても生徒のニーズを完璧に汲み取り解決していくことができないため、フォローアップとして何時でもどこでも好きな時に悩みや相談を投稿してもらい、社会人が対応していく。また、社会

人からも生徒が必要とする情報を主体的に発信していき、生徒に新たな気付きをもたらす。

#### ●ミライドア部

ミライドアに参加した生徒から希望を募り、「目標を決めて行動する」をテーマに、社会人がメンターとなって目標達成を支援する。ミライドアを通して実際に何か行動に移したいと思った生徒に対して、マンツーマンで支援を行い、部活のように目標達成を目指す取組。約1か月半にわたり個別のオンライン面談を行い、目標設定から成果発表までを行う。

## 成果目標・事業計画

### 【成果目標】

- 参加生徒 延べ1,000名
- 参加する社会人ボランティア講師 100名

#### 〈令和2年度〉

- 参加生徒 延べ250名
- 参加する社会人ボランティア講師 25名

#### 〈令和3年度〉

- 参加生徒 延べ400名
- 参加する社会人ボランティア講師 50名

#### 〈令和4年度〉

- 参加生徒 延べ350名
- 参加する社会人ボランティア講師 25名

### 【事業計画】

- ミライドア
  - 開催場所：オンライン
  - 開催時期： 10回／年（令和2年8月～12月）  
2、3回／月（令和3年1月～12月）
  - 参加人数：中高生10～15名程度／回
  - 内容：社会人から進路選択や現在の仕事に至るまでのストーリーを紹介し、様々な選択肢があることを知ってもらう。1回10分ずつ、合計3～4名の社会人から話を聞く。

## 実施状況・成果

### 【実施状況】

- ミライドア
  - 開催回数：計28回  
（うち公演形式8回、ワークショップ5回）
  - 参加人数：中高生延べ500名弱
- アスデッサンオンライン（短期プログラム）  
令和2年度はテキストベースのコミュニケーションを行っていたが、やりとりの活性化に課題があったため、令和3年度前半に企画を行い、丸一日かけて



生徒と対話をする「短期プログラム」として、10月に装いを新たに再開した。

●開催回数：1回（10月）

●参加人数：中高生3名

- アスデッサンオンライン部（ミライドア部から改称）

●開催回数：3回（4期：6月～8月、5期：10月～12月、6期：2月～進行中）

●参加人数：4期生5名、5期生4名、6期生6名

### 【成果】

- 参加した生徒へのアンケートでは、好意的な回答が大半を占めている。
- 過去に2回以上参加した生徒は100名以上であり、参加者の満足度が高いイベントと認識している。

## 課題と対応

- 参加生徒数をさらに増やし、ボランティアとして協力いただく社会人パートナーの参加機会を増やすために、イベント実施回数を増やすことが課題。現場チームとすり合わせていく。
- コンテンツの充実化・体系化、運営の標準化・効率化が課題。マネジメント専属のチームを立ち上げ、対策を検討中。

### ★ 団体にとっての効果 ★

●Twitterや学校での講演など知名度を上げる手段が増え、広告に頼らず生徒の集客ができるようになった。また、当法人に協力いただく大人のボランティアも増えた。

## 児童養護施設巣立ち応援引取体制強化



### 実施期間

令和2年11月1日～令和5年3月31日

### 助成額

令和2年度：	3,335,000円
令和3年度：	289,000円
合 計：	3,624,000円

(備品等購入費、消耗品費、印刷製本費、役務費、使用料・賃借料)

### 事業概要

- 一人暮らし用の家電家具を贈り届けることによって、児童養護施設を巣立つ若者が自立にかかる一時的なお金と時間の負担を減らし、学業や就活など本来の自立に集中できるようにするとともに、施設を巣立った後の日々の生活の基盤を手に入れられるようにする。そのちょっとした経済的ゆとりと心のゆとりが自立の後押しになることを期待し、「児童養護施設巣立ち応援 引取保管・配送の体制強化」を実施する。
- 事業内容は以下のとおり。
  - 安全性の高い車両による運転ボランティア体制の強化
    - ・引取保管・配送に使用する、安全装備と保険が充実した車両を購入する。
    - ・ボランティアのための「車の安全運転 手順チェックリスト」などを作成し、徹底する。
  - 寄贈者の視点からの引取
    - ・屋根がある車両の導入により、天候やレンタカー予約に左右されない引取保管・配送を実現

し、寄贈者の引越し予定などに配慮した引取体制を強化する。

- 新たな引取保管体制強化による寄贈者にとってのメリットやボランティア安全性強化についてのチラシを配布し、寄贈者紹介やボランティアの応募につなげる。

### 成果目標・事業計画

#### 【成果目標】

- 寄贈受付・引取保管や配送の手順をマニュアル化・チェックリスト化することによって、属人性を排した引取保管・配送ボランティア体制を確立する。
- 安定的に寄贈を受け、一人暮らし用の家電家具を必要としている児童養護施設を巣立つ若者の自立を持続的に応援することを目指す。

#### 【事業計画】

- 令和2年11月：新しいチラシの作成、印刷  
安全装備が充実した車両を購入し任意保険強化
- 令和2年11月以降：
  - 各種手順チェックリスト作成徹底、見直し修正
  - ・ボランティア向け：「車の安全運転」「引取保

管・配送ボランティア募集」

・寄贈者や会員向け：「寄贈者の視点からの引取保管」

- 引取保管（月平均3回程度）、配送（年30回程度）、チラシ配布

実施状況・成果

【実施状況】

- 安全な引取活動の体制強化
  - 令和2年度から引き続き寄贈品引取活動を実施し、寄贈品受付システムを整備、マニュアルを作成した。
- 活動の広報
  - 令和2年度から引き続き活動周知用のチラシを作成、印刷、配布した。
  - コロナ禍により、講演会は延期した。
  - SNS配信に向け、コンテンツを整理した。
- 贈呈式に向けた取組
  - 令和3年12月：寄贈品の贈呈先の確認、保管場所転換など、贈呈式に向けた準備を進めた。
  - 令和4年2月：児童養護施設に寄贈品を配送し、施設において贈呈式を開催した。都内16施設で卒業する若者52名に家電家具を送り届けた。

【成果】

- 都内165軒を訪問し、寄贈品の引取を実施した。
- 令和2年10月に安全性の高いバンを購入したことで引取活動が強化され、寄贈者の都合に配慮した引取が効率的に行えるようになったほか、贈呈準備のための寄贈品の保管場所移動の効率も向上した。
- 安全性の高いバンを導入したことによって、ボランティアが安心して引取活動に参加できるようになり、運転を担うボランティアの増加につながった。
- 寄贈品受付から引取調整までをシステム化し、その運用をマニュアルに整理し見える化することで活動効率が向上した。

課題と対応

- 効率的で安定的な引取活動の実施に向けて、運転ボランティアを増やす必要があると考えている。寄贈者とボランティアを増やすため、広報活動に力を入れていくことが課題。活動の周知を図るために、SNSの活用や講演会の開催などを考えている。

一緒に応援しませんか？



児童養護施設からの巣立ち

私達は、児童養護施設を18歳で巣立つ若者達に、寄贈された家電・家具を届けることを主な活動にしているNPOです。2021年は、支援している17施設の54名に届けることが出来ました。

会員募集！

(会員になっていただけるだけで大きな支援です！)

- ・会費や寄付を通じて 支援する気持ちをあらわしたい。
- ・一緒に時間を使って作業し貢献したい。
- ・自分の経験やノウハウを活かしたい。
- ・一度、気楽にボランティアに参加してみたい。
- ・忙しい毎日だけど、出来る範囲で貢献したい。

誰でも気軽に、自分の価値観とライフスタイルにあった形や頻度・関与度で自分流に参加でき、無理なく長く続けられるような場を作っていきます。

※詳しくは裏面をご覧ください。



寄贈品募集！

小さなアパートや寮でのひとり暮らしです。大きすぎないモノをお願いします。

1. 家電 (最も人気) 製造後10年未満
  - ・冷蔵庫(2ドア・高さ 130cm未満)
  - ・洗濯機(縦型・乾燥機能なし)
  - ・電子レンジ (含オーブンレンジ)
  - ・テレビ (40インチまで、BCASガードとリモコン付)
  - ・炊飯器(内釜容量なし、5.5合まで)
  - ・掃除機 (吸引力が十分なものを)
2. その他の家電 製造後10年未満
  - ・電気ケトル・DVD録画再生機・ドライヤー・アイロン・小型加湿器
3. 小型家具
  - ・アスタテック(木製チェスト)
  - ・小型テレビ台
  - ・座卓(脚折畳可)
  - ・折畳みクローニング座椅子
4. ノートパソコン
  - Windows10以降・MacBook Mac OS X 10.6以降
5. 使用頻度の少ない調理具
  - ・フライパン・鍋・包丁・まな板
  - ・一人暮らし向けの食器・台所用用品
6. 日用品
  - ・目覚まし時計・掛け時計
  - ・未使用のタオルケットやタオル

- 処分費用も運搬費用もかかりません！
- ご相談の上、会員が引き取りに伺います。
- あなたの社会貢献をお手伝いします。

寄贈用【申込・問合せ・相談窓口】

planetcanal.donate@gmail.com

※経済性の観点から、同じ方面をまとめて引取りに伺います。日程に余裕をもってお申し出くださるようお願いいたします。



寄贈用メールアドレス

プラネットカナルの主な活動

児童養護施設の子供たちは、18歳になると基本的に施設を出て独り立ちすることになります。いざというときに頼れる親や家庭がない子どもたちにとって、巣立ちはどんなに不安なことでしょう。公的支援金が支給されますが、ワンルームのアパートに引っ越せば、支払いがほとんどなくなってしまふ額です。

一方で、引越しなどの生活の変化により手放される家電家具があります。またじゅうぶんに使える

のに、荷造りや配送料もかかる、活かし方もわからないので、手取り早く廃棄したりしてしまいます。

プラネットカナルは、これら手放される家電家具の寄贈と寄贈者の思いを受け、児童養護施設の18歳になった若者たちに届ける仕組みを作りました。彼ら彼女らの、不安いっばいの顔を微笑みに変わる瞬間をイメージしながらの活動、それがSUDACHI(巣立ち)プロジェクトです。



【仲間募集中】

- 無理なく可能な範囲で、次のどれでも参加できます。
- 寄贈品保管場所での整理・探寸・登録・クリーニングなど (月例ボランティア日：第1日曜/15日か前後の平日)
- 寄贈品募集や引取 (随時)
- 運営支援：事務所やテレワークで (随時)
- 贈呈：保管場所での贈呈品チェック・配送準備など (1月~2月)
- 会費
- 年会費 個人3,000円 (含ボランティア保険料) 団体・法人10,000円
- 学生、障がい者、児童養護施設出身者 会費免除

会員募集 問合せ先 planetcanal.contact@gmail.com (QRコードあり⇒)



会員募集メールアドレス

団体にとっての効果

- 参加ボランティアが増えたこと、車両を借りる必要がなくなったことにより、効率的に引取活動の日程調整ができるようになった。